

第43回 うつのみやこども賞だより

令和8 (2026) 年度 2回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『おれたちはギロンする』

安田 夏菜／作 小鈴キリカ／装画・挿画（静山社）



令和8年 7月 4日

～読んだ本の感想より～

- ようたは最初はめいにろんばされていたけど、最後は海野先生をろんばしてしまうくらい成長しているのがすごいなと思いました。
- めっちゃおもしろかった。もともとギロンが私も好きだったけど、スカッとする系の物語を好きな子にすすめたい。
- なぜそうだと思うのか、自分の気持ちを真っすぐ伝えるのがかっこいいと思った。
- めいのお母さんの言葉「ギロンしよう共に生きるために」というのが、いい言葉だなと思った。
- 二人のギロンするシーンで主人公がまったく勝てず、自分のことを通行人 C といっているところが面白かった。
- さいばんとかもこんなふうにぎろんするのかなと思いました。読んでいるときはめいとようたとぎろんしているように思いました。
- どのギロンも自分も話に夢中になって、「わたしはこっちの意見かな。」とかなど自分の意見を心の中で思ってしまうほどおもしろかったです。

『ふたりのマンガ線』

庭野 るう／作 神保 賢志／装画・挿絵（フレーベル館）

- 性格や考え方、環境も正反対のふたりがマンガ作りを通しておたがいを認めて成長していくところが心に残った。
- 正反対の二人だからこそ歩みより、一つの作品を生み出した感じがして感動した。
- 性格が正反対だけど、『デコボコ』でつながった秘と錬磨というストーリーがすごく好き！天才でもこういうマンガを読むんだあ～と思った!!
- ひめろが二人で作っていたマンガを友達に見せてしまったかられんまがおこってしまって、仲直りできるかとても心配になった。
- 大変なことがあっても、立ち向かって乗り越えたいと思った。
- 育つかんきょうも性格も全部正反対で、そんな二人の心境の変化がどうなっていくのかをドキドキしながら本を読みすすむことが出来ました。

『怪盗うみねこの事件簿』

阿津川 辰海／作 コタチユウ／装画・挿絵（主婦の友社）

- 怪盗うみねこがいらしたおねがい、どうしてこんなおねがいをしたのか人に聞いたりしながら考えたり、だれが怪盗うみねこかよそうするのが楽しかった。
- へんてこなものばかりぬすんでいくのがおもしろかったし、これが実在している、というのにもおどろきました。
- ケンとヒサトが怪盗うみねこのしょう体をときあかせてすごいと思った。
- 主人公のように怪盗を“追う”立場として見るか、怪盗うみねこと同じように“盗む”立場で見るかを変えることで二度楽しめた。
- 怪盗うみねこに盗んでほしいものが全て価値のないものでびっくりした。盗んでもらった理由も意外でびっくりした。

『みちのく妖怪の町河童の子守唄』

田沢 五月／作 むらた ももこ／絵（国土社）

- 実際の遠野物語を読んでみたいと思った。
- カッチャンが一馬といっしょにてんぐをたおす時、あきらめないでたたかっていたのがおもしろかったです。
- 一馬や座敷童たちがカッチャンに大好きだと伝える場面が心にのこっています。
- まずあまりでてこないキャラが人物しょうかいにでてくることにビックリしました。さいごのてんぐとの大けっせんではドキドキがとまりませんでした。